

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
166	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Positive CAGE screen correlates with cirrhosis in veterans with chronic hepatitis C. C型慢性肝炎の退役軍人における CAGE スクリーニング検査と肝硬変の関連	
執筆者	
Kamal A, Cheung R.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Dig Dis Sci. 2007 Oct;52(10):2564-9.	
キーワード	
飲酒、C型肝炎、CAGE 質問票、肝硬変	
要 旨	
<p>目的： 問題飲酒と肝疾患の重症度との関連を、CAGE 質問票および酒類別量頻度法による自記式質問調査を用いて検討した。</p> <p>方法： コホートは 38 人の肝硬変患者 (10 人の非代償期肝疾患患者を含む) と 62 人の軽度線維化 (0-1 期) の患者で、年齢と感染期間はほぼ同じである。</p> <p>結果： 平均飲酒量は両群で同様だったが、CAGE スクリーニング陽性 (2 項目以上該当を定義) は肝硬変で多く (OR 5.24, 95%CI 1.78-15.39)、肝硬変の非代償期でも関連する傾向を認めた (OR 13.3, 95%CI 0.67-256)。多変量解析においては、肝生検における炎症度 (OR 67.7, 95%CI 10.6-431) と CAGE スクリーニング陽性 (OR 8.09, 95%CI 1.15-57.1) のみが肝硬変の独立した予測因子であった。</p> <p>結論： CAGE 質問票は、1 日当たり飲酒量や生涯飲酒量よりも優れた進行肝疾患の予測因子であることが示唆された。</p>	